

令和元年度第1回奈良市総合計画審議会会議録			
開催日時	令和元年10月8日(火) 午前9時から午前10時30分まで		
開催場所	奈良市役所北棟2階第16会議室		
出席者	委員	伊藤隆司委員、伊藤忠通委員、伊藤俊子委員、梅林委員、大方委員、大窪委員、尾上委員、清水委員、西尾委員、山下委員、山本委員【11人出席】	
	事務局	仲川市長、向井副市長、西谷副市長 【総合政策部】 染谷部長、木村次長 【総合政策課】 谷田課長、譚田課長補佐、西浦係長、高井	
開催形態	公開(傍聴人 1人)	担当課	総合政策部総合政策課
議題 又は 案件	1 市長挨拶 2 委員紹介 3 正副会長選出 4 会議の公開及び傍聴要領について 5 奈良市第5次総合計画策定方針について 奈良市第5次総合計画策定スケジュールについて 6 奈良市の課題について		
決定又は 取り纏め 事項	1 会長に伊藤忠通委員を選任し、副会長に山下委員を選任した。 2 総合計画審議会について、会議を公開するものと決定し、傍聴要領を決定した。		
<b>議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等</b>			
1 市長挨拶  2 委員紹介  3 正副会長選出 ・ 委員の互選により、会長に伊藤忠通委員が選任された。 ・ 委員の互選により、副会長に山下委員が選任された。  4 会議の公開及び傍聴要領について ・ 事務局より「奈良市総合計画審議会傍聴要領(案)」【資料4】について説明 ・ 総合計画審議会については会議を公開するものと決定し、傍聴要領についても事務局案のとおり決定  5 奈良市第5次総合計画策定方針について、奈良市第5次総合計画策定スケジュール			

について

- ・ 事務局より「奈良市第5次総合計画策定方針」【資料5】について説明
- ・ 事務局より「奈良市第5次総合計画策定スケジュール」【資料6】について説明
- ・ 大窪委員より、第5次総合計画の策定においては、例えば第4次総合計画から引き継がれる課題・新たに加わる課題・ある程度改善された課題が出てくると想定されることから、論点の整理のためのプロセスが必要との意見があった。また、当総合計画審議会においては個別計画に関する議論も行うのかとの質問があった。
- ・ 事務局より、総合計画審議会では、個別計画についての議論は行わない。基本的には、第5次総合計画で定める理念を基に個別計画に落とし込む。まずは、総合計画の策定状況を庁内で共有し、各部署で個別計画の策定・更新等を行っていく。また、第5次総合計画の策定について、第4次総合計画の総括を行った上で、継続課題や10年前は見えていなかった課題等も加味しながら策定業務を行っていく。第2回審議会において第4次総合計画の総括評価を示すと回答した。
- ・ 梅林委員より、地域と行政の関わり方・参画について、計画の中に入れる必要があるとの意見があった。

#### 6 奈良市の課題について

- ・ 大窪委員より、防災について、ただ安全なまちに作り変えていくとの議論だけでなく、奈良の歴史や文化性をきちんと踏まえた上で、災害の歴史を生き抜いてきた防災文化をベースにした防災まちづくりに取り組むべきではないかと考えている。
- ・ 大方委員より、市役所は子育て・教育・福祉・健康といった部署がばらばらになっているが、幼児教育や学校教育等の接続部分の融合したわかりやすい窓口が必要である。また、様々な子育てに関する施策・取組についてもっと市民にとってわかりやすいアプローチをするべきである。また、地域の活動については、中心となっている高齢者が疲弊することや、義務化により若者が寄りつかないといったことが起こらないようにするべきである。
- ・ 梅林委員より、縦割り行政ではなく、窓口を一つに一本化して、行政は行政の中で横串を通して協議し、一つの窓口に行けばすべてが解決できるような方策を考えてほしい。地域自治協議会立ち上げの中で、地域も変わろう、自分たちのことは自分たちでやろうとしているが、行政も変わるような努力を是非していただきたい。
- ・ 伊藤俊子委員より、総合計画に様々な目標や取組が記載されているが、計画を作って終わりということにならないよう、書かれたことに関しては、どこまでできたのかということ、しっかりチェックするべきである。
- ・ 伊藤隆司委員より、奈良市における人口減少をどのように克服するのかといった際に、子育て支援で子どもを増やすことに加え、奈良に移り住んでもらうための施策や、外国人労働者等と地域がうまく共存していくための支援も、今後考えて

いかなければいけない。人口数と地域の活力は比例すると考えられ、人口減少は市や財政の縮小につながり、色んなことができなくなるということになりかねない。

- ・ 尾上委員より、IT技術も活用しながら、行政とメディアが連携して、防災関連の情報や地域の情報を発信していればよいのではないかと。また、地域のスポーツ活動という面においては、クラブチーム化という流れがある中、より子ども達が教育・スポーツに関わっていけるような環境が奈良市にでき、奈良がモデル地区のようになればよい。
- ・ 清水委員より、気候変動によって災害が多発している状況であるため、この10年間の計画の中で、防災やインフラの整備、熱中症対策が問題となり、根本的な対策が必要。また、外国人の雇用が増えると予測されるため、その人達の子どもの問題や家庭の問題も視野に入れるべき。行政の縦割りということについては、それをつなぐのは市民であるかもしれない。
- ・ 西尾委員より、特に若い世代・子どもたちが芸術に触れられる社会であってほしい。奈良では、文化財は大事にされているが、同時代の芸術に触れる機会が圧倒的に少ないことが課題である。また、色々な人がアートの実践やアートの自由に触れ、表現できる場を実現できると、豊かな社会に繋がるのではないかと。
- ・ 山本委員より、奈良市は異なる地域特性を持つ西部地域、東部地域、中部地域を擁するが、それらを様々な分野で連携させて、プラスに変えていくことで、奈良発のまちづくりができると期待を寄せている。また、そうしたことを動かしていく原動力は、市民一人一人が自分事として捉えるという、シビックプライドの醸成である。
- ・ 山下副会長より、現在、地域が政策の焦点になってきているが、そのような時に行政から住民を動員しようとするとう拒否感が起こる。そのため、地域住民が地域の課題を自分事として捉え、自発的に動いてもらうような視点が重要である。地域課題を自分事として捉えてもらうためには、人口減少等に伴う歳入減等の情報を伝えるのもよい。また、行政の縦割り解消の第一歩として、まずはこの審議会において様々な分野の部長等に出席してもらうとよいのではないかと。
- ・ 伊藤会長より、奈良市をこれから良くしていくには、行政と市民と企業・民間の三者が社会全体としてガバナンスをどう構築していくのか、いわゆる市民参画は市民に責任を負わせている感じがあり、それはよくないが、三者がどのような関係性を築いていくのかを、今回の総合計画の中で考えてはどうか。また、最終的に重要なのは市民であり、奈良市民として誇りや自尊の心を持つことが大事で、そのためには、市や地域の中において、社会人までを含めいかに教育していくかが重要である。

以上

資 料	【資料1】 奈良市総合計画審議会委員名簿 【資料2】 奈良市附属機関設置条例 【資料3】 奈良市総合計画審議会規則 【資料4】 奈良市総合計画審議会傍聴要領（案） 【資料5】 奈良市第5次総合計画策定方針 【資料6】 奈良市第5次総合計画策定スケジュール 【資料7】 分野別個別計画一覧
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------